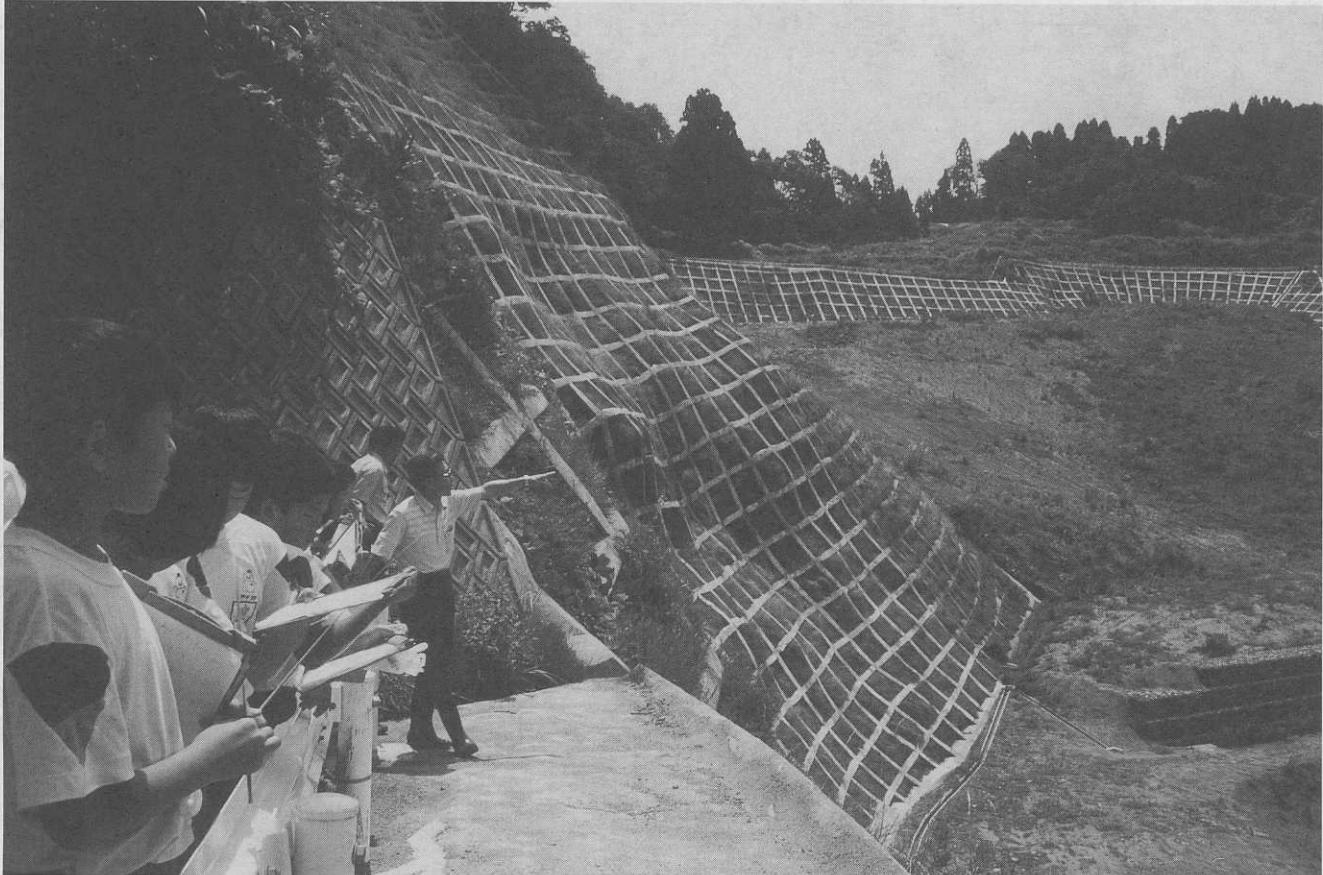




棚田 ライテラス

第12号 1998.11.30
(季刊・年4回発行)

発行／全国棚田(千枚田)
連絡協議会
編集／ふるきやらネットワーク
〒169 東京都新宿区百人町1-23-29-202
TEL 03-5389-9937/FAX 03-5389-9983



新潟県安塚町・棚田と地すべりの関係を学ぶ小学5年生

日本の原風景

NHKエグゼクティブアナウンサー 山根 基世

田舎育ちの私は、実家は農家ではありませんが、友だちの家の田植えも稻刈りも手伝わせてもらったりすることがあります。なまぬるい泥の中に足を入れた時のヌルリとにくすぐったさ、蛭に吸いつかれた時の気持ちの悪さ、刈りとった稲の青い匂い……みんなはっきり覚えています。そんな経験とともに私は、水田に植えられた早苗が青々と伸びて一斉に天を指さし、やがて色づき、実り、黄金色に波打つ……稲の成長がその時々に作り出す美しい風景を眺めて大きくなりました。

だからこそ旅番組の取材で日本全国どの村を歩いても、その田園風景が私には、胸をしめつけられるほど懐かしく感じられたのだと思います。荒れはてている休耕田の前に立つと、私の心までさんでくるような気がしました。生き生きと稲の育つ力強い田んぼは、見てるだけで私の中にも生気が漲り、心豊かになれるようでした。

山の斜面一面に小さな田んぼが広がる棚田を訪ねました。この小さな田の1枚1枚を昔から日本人は丁寧に耕し、大切に稲を育てて来たのです。日本人は何と勤勉で誠実で愛情深いのだろうと感動し、誇りさえ感じました。

民族の心を結びつけるのは、その共有する歴史だといいます。歴史というのは決して、戦争や政権交替などの「できごと」だけではないはずです。同じ物を食べ、同じ風景を見て暮らす日々の生活の積み重ねのことでもあります。2000年も前から日本人は米を食べ田んぼで稲の育つのを眺めて暮らしてきました。その風景は私たちの心の中、血の中に深く沁みついています。今、田園風景こそが私たちに日本人であることを思い出させてくれます。

私の友人でも国際的に活躍する人ほど、自分の国を誇りにしている外国人に刺激を受けたり、彼らに尋ねられて、もっともっと日本を知る必要があると痛感しているようです。私たちが日本の原風景を大切に思うことは、真の国際化につながることではないかと思うのです。

「棚田と私たちの関係」

～棚田は、都会の私と田舎の私の橋渡し～

1998年9月19日(土)～20日(日)、青々とした秋晴れの空の下、新潟県安塚町で、第4回全国棚田（千枚田）サミットが開催され、無事終了した。北海道、栃木県、香川県をのぞく全国から1000人以上が参加し、棚田の未来を熱く語り合った。

国 棚田（



共同宣言

地元安塚中学の生徒が共同宣言を読んだ。

1. 私たちは水田を耕し、日本農業を活気と魅力あるものにします。
2. 私たちは緑を守り、地球にやさしい農村社会を築きます。
3. 私たちは土地の有効利用をはかり、農村空間活用型の農業を展開します。
4. 私たちは農業や体験を通じて、子供たちの育成に力を注ぎます。
5. 私たちは常に問題を提起し、その解決に努力します。
6. 私たちは1人でも多くの人々にネットワークを広げ共存社会の実現に努力します。



「棚田と私たちの関係」をテーマに、会員の間でさまざまな意見交換がなされた。会員内でのネットワークを強め、また、1人でも多くの人に棚田を理解してもらうために、インターネット上で情報交換をはじめ、都市と農村の交流の仕方、棚田研究の増進など積極的な情報交換をはかる必要性を求める声が多く出た。

棚田保全と棚田の活用に向けて、多くの人々が情報を交換し、交流をし、協力していくことを確認しあう場となつた。

「棚田と私たちの関係」をテーマに、会員の間でさまざまな意見交換がなされた。会員内でのネットワークを強め、また、1人でも多くの人に棚田を理解してもらうために、インターネット上で情報交換をはじめ、都市と農村の交流の仕方、棚田研究の増進など積極的な情報交換をはかる必要性を求める声が多く出た。

それは、まず分科会という形で棚田の活用を3方面からとらえ、「自分たちはどうすべきか」という問い合わせ掛けたことである。一つは「生産の場として」もう一つは「教育の場として」、さらに「交流の場として」。中山間地域が、自ら棚田をどうしていくか提案し合い、検討しあつた今回のサミットは、サミット終了後も問い合わせが多く反響を呼んでいるという。

そのほか、安塚町ならでは演出により、19日夜に行われた交流会のオープニングには、多くの花火が棚田の山々に響きわたったほか、稻を背負つた中学生による共同宣言やはさかけ稻のゲートなどの心温まるもてなしに、参加者たちも顔をほころばせた。

中山間地域から発信が始まったサミット

全国棚田（千枚田）連絡協議会

会が主催する全国棚田（千枚田）

サミットも今年で4回目を迎えた。今回は、サミットとしても全国棚田（千枚田）連絡協議会としても、棚田を未来につなげていくための新しいステップを踏み出したことに着目したい。

全国棚田（千枚田）連絡協議会

会

棚田シンポジウム・分科会

今年のサミットの特徴は、3つの分科会にわかれ、3つの視点から棚田をどう考えなおしたことです。

第1分科会 「棚田を耕す」

「棚田を耕す」
……守ろう棚田よみがえらせよう棚田
はたして誰がどんな方法でよみがえらせるのか

棚田の農地をどう守り、保存していくかというテーマで話し合いかが進んだ。パネラーは佐賀県西有田町の岳信太郎棚田会の池田勝幸氏。平均年齢44・5歳、11人で結成する会の産直やオーナー制度の試みが語られた。また、もう一人は安塚町の細野集落で土地利用計画づくりを行う北陸農業試験場研究員の遠藤和子さん。高齢者、後継者不足の集落が乗り出した、集落単位での保全の報告がなされた。さらに新潟県亀田郷農家の田村唯次氏。山間地と平野部が交流していくなど国民的合意を得るために活動ができればと発言。上流の田んぼが荒れると下流の田んぼも荒れるといった、流域全体で棚田を考えていく必要などが熱く語り合われた。



コーディネーター

伊藤忠雄氏 (新潟大学農学部教授)

パネラー

池田勝幸氏 (岳信太郎棚田会代表)

遠藤和子氏 (農林水産省北陸農業試験場農業経営研究室研究員)

田村唯次氏 (農業・亀田郷農業を考える会副会長)



第2分科会 「農村教育を語る」

「農村教育を語る」
……棚田は自然の教室
農業・農村は、豊かな教育活動を展開できる

劇団ふるさとときやらばんの脚本・演出家の石塚克彦氏は、アメリカの米作農家や全国を取材する中で出会った地域の農村教育の様子を語り、インストラクター・やレストハウス等の必要性を提案。また、安塚町教育委員会の竹内実氏は、「棚田ワーキング」づくりと関連した安塚小学校での活動報告のほか、大人たちの「ぼやき」が子どもたちに伝わり、子どもたち自身が大人に教えることも必要と提案した。(財)育てる会の農本花氏は、山村留学の実践から子どもたちが農山村に触れることで変化するさまや現状を報告。新たに棚田を教育の場に生かすための提案が出された。心を育て、学びの場となる棚田の大きな側面が浮かび上がった。

コーディネーター

森 嶽夫氏 (明海大学不動産学部教授)

パネラー

石塚克彦氏 (劇団ふるさとときやらばん脚本・演出家)

竹内 実氏 (安塚町教育委員会生涯学習指導員)

農本 花氏 (財団法人育てる会 美麻学園主任指導員)

第3分科会 「出あいふれあいを語る」

「出あいふれあいを語る」
……人々が行きかうムラに
地域の特色を出した農村空間の活用とは?

棚田を架け橋として、都市と農村との交流について議論を深めた第3分科会。農村側として、都市との交流を模索してきた長野県望月町の伊藤盛久氏、群馬県片品村の星野恵美子氏、都市側として安塚町にもよく訪れている音響機器評論研究家の江川三郎氏が、自らの活動の報告や都市と農村の交流が抱えている問題点を整理し、新たな方向性を探つた。

地域の包容力ともいえる「食・健康・信頼・心・景観・文化・ふるさと」があるところには集まることを確認しあった。また、地元の人々が自信を持ち、ただイベントで終わるのではなく、次につないだり、生産活動と結びついた交流を模索していくことが必要と提案が出た。



コーディネーター

伊藤直人氏 (新潟日報社編集局報道部次長)

パネラー

伊藤盛久氏 (農業)

江川三郎氏 (音響機器評論研究家)

星野恵美子氏 (旅館業)

記念講演

坂田 明氏

(ジャズ・ミュージシャン)

「ミジンコの都合と 田舎の風景」

サックスの演奏も添えられて盛り上がる

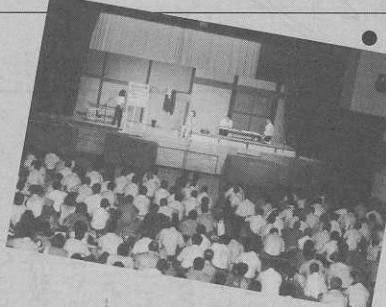
坂田明氏は、ジャズミュージシャンでありながら、自らミジンコを飼うミジンコの研究家としても有名である。そんな坂田さんが、「日本の私たちが生きていく根本は農業。農業が一番。今回話ができるうれしい」と話を切り出した。

公演は、ミジンコという透けるいのちへの感動やミジンコが生態系の中に組み込まれ、生まれ、喰われて死んでいく自然の摺理、自然の恵みである食べ物はすべて「いいのち」だという思がユーモアたっぷりに語られ、会場はわいた。そのあと、会場を巻き込みながら歌やサックスの演奏も披露され、心地よい音楽と軽快なおしゃべりに参加者たちは大満足の90分だった。



坂田さんは、ラスト40分、心にしみわたるサックスの演奏を聴かせてくれた。

大浦安劇団



「山なみに虹が」
地元劇団が描く
中山間地域の本音

19日の総会のあとに、アトラクションとして、地元で8年前に発足した大浦安劇団の公演が行われた。安塚町の細野集落を取材してつくられた、中山間地域の問題を浮き彫りにした作品で、出演者の熱演も重なり、大きな拍手に包まれた。

棚田ツアー

集落に行って、地元の方々と稲刈りをするコースと町内の棚田や地すべりあと、施設を見学する町内めぐりコースの2コースが設けられた。棚田の現状を見たり、地元の人と話をする機会がもて、参加者たちは有意義な時間を過ごすことができた。



自然王国ほどの村へ
黄金色の稲穂刈り
そして、町内めぐり

個人会員の会



個人会員同士の
交流を深め
さらなる活動展開が

個人会員たちの交流や意見交換の場をもとと夜なべ交流会のあと、個人会員の会を設けた。各地域ブロックごとに世話を決め、活動をしようと話が盛り上がった。さらに来年サミットの事前に紀和町を訪ねようなど積極的な活動が展開されそうだ。

夜なべ交流会

19日の夜は、メイン会場で夜なべ交流会が行われた。安塚町の女性たちで結成する「女性百人委員会」のお母ちゃん方が、腕をふるつた安塚の幸に舌づづみを打ちながら、全国から集まってきたさまざまな顔ぶれと出で、語り合う場となつた。



安塚の幸・棚田の恵み
お母ちゃんの手作り
棚田の恵みを満喫

【最優秀賞】

岡本 貞 (88) 広島県
広島市・無職



全国棚田(千枚田)連絡協議会

【優秀賞】

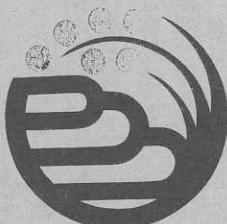
根本隆一 (41) 埼玉県
飯能市・会社員



全国棚田連絡協議会

【優秀賞】

山田直人 (39) 宮城県
名取市・会社員



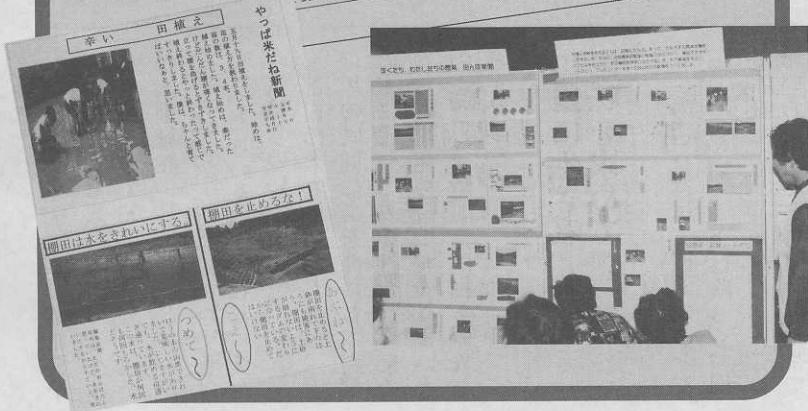
棚田風景と稲穂を組み合わせた。稲穂がスクスク育ち実るよう歴史的文化遺産「棚田」を守り、残そうとする活動が全国に広がり、交流、連帯を深め、未来へ向けて大きな成果があげられるよう願いを込めた。

事例発表として、サミットの中で安塚町での「棚田ワークブック」づくりを報告。さらに会場には、「ワークブック」づくりとからんで、安塚小学校小学5年生一人一人の手による、棚田や農作業を体験し学んだ結果がコンピューターを駆使してまとめられた田んぼ・農業新聞25枚が掲載された。棚田の役割を学んでの驚きや農作業のたいへんさ、おもしろさなどそれぞれ自分流に表現し記していた。

「棚田ワークブック」は、2月末に出版発行の予定。ただいま予約申し込み受付中! A4、120ページ予価2000円。問・ふるさとさやらばんTEL 042-381-6721

「棚田ワークブック」予約
申し込み開始

右:「棚田ワークブック」
ダイジェスト版より
下:サミット会場に展示
の安塚小学生個々による
田んぼ・農業新聞から



サミット後
も視察が
続々

サミット開催により、棚田や中山間地の現状や新たな試みを全国的にアピールできた安塚町には、いまも数多くの問い合わせがあり、視察者が訪れている。中山間地域の活性化を考えるためにも棚田の現状を見てもらおうとJIA全中がコーディネートし、農政記者が訪れたり、環境教育、田んぼの教育の実践例の調査として、安塚の小学生が生きものつかみをした棚田を見に来たり、反響は大きい。

さらに修学旅行で安塚町を訪れて田植えを体験しようという都市の学校も出てきた。

事前交流
生産者同士の
ネットワーク
づくり

第1分科会のパネラーの田村唯
次氏も参加した。

棚田を見、「こんな不便なところで」「日本経済から考えたら、ここでの米づくりはむずかしい」という声が、互いに言葉を交わし、上流域が下流域を守つていて、つながりが理解されていくにしたがい、「何か、労力提携ができるのか?」「自分たちもここで米をつくってみたい」という発言が多くなってきたのである。

棚田を見、「こんな不便なところで」「日本経済から考えたら、ここでの米づくりはむずかしい」といふのがはじまったのである。

第5回 全国棚田(千枚田)
サミットは、
三重県紀和町で開催

紀和町丸山地区にある1034枚の丸山千枚田。イベントやかかしコンテストなども行っている紀和町でのサミットは来年。

新潟県高柳町

取材・文：石井里津子

山の里で生きるために、
自ら山の里の豊かさを見つけ、
新たにつくり出す感性を育む

山里にだけ与えられた、気温の差が生み出す美しい風景。冬この集落は豪雪で閉ざされ、孤島となる。冬場は一組の老夫婦がここに暮らすだけという。中山間地は豊かさと不便さが同居する。いかなる尺度をもつてその地に生きるかで、同じ風景も美しく感じるかどうか変わつてくる。

その結果、集落で民宿運営や炭焼きがはじまり、祭りも生まれた。そして96年、交流・観光の大型施設「じよんのび村」が建てられた。「じよんのび」とは「ゆつたりのんびりとした、真から気持のいい」の意。

都市の人も地元の人もが、山の里の時間に身をゆだね、高柳の幸に舌づみを打ち、温泉で

山里に生きる 意味を求めて

自分たちの尺度をもとうとしている。山里で豊かに生きる知恵づくり、そしてその知恵を生み出す感性を育もうと試みる。「私たちは、山で楽しく暮らす知恵をなくしてしまった。便利なものを追求して、豊かに暮らす知恵をなくしてしまったんです。昔の道具には知恵がいっぱいです。いま、ここで豊かに暮らすための知恵を一人一人に育てて

「もらつています」。
町のふるさと振興課課長春日俊
雄さんがいう。

秋の早朝 姫山に登る。眼下に見えるはずの町は、低くたれこめた濃厚な霧の中にある。一面、白く混濁した霧の海原が大きなうねりを見せ、合間から山々が海に浮かぶ島のように頭を出す。その山の頂きから朝日がまばゆい光を放ちはじめると、霧は金色に染まりながら、そのビロードのよくな質感を薄めていった。

周囲をぐるりと山々に囲まれ、まるですり鉢の底にあるかのような町、新潟県高柳町。たかやなぎまち。人口約2600人。

そして最近、「風の楽校」と名付けた「風の人」である町外の講師とともに「地の人」地元の人間が、話し合い、地域の魅力づくりやここで豊かに生きる感性を育むむ場も設けている。

JIA
高柳町が売り出す棚田の米「じょんのびの里」は大好評である。はさかけコシヒカリ100%の地元の米。手間暇かけた山の米のうまさと農家の真心とがこもった、山の里ならではの「豊かさ」が売りである。地元の人が、想いをこめ、ごまかさずにつくる米は、自ずと情報発進力をもち、売れるという。

「沢田」という。山は険しく、沢を開田し、稻を育てた。ここはおいしい米がとれる米作地帯である。一農家の平均耕作面積は6畝歩。近年、荒廃する田も増えた。減反政策や高齢化の中、山の遠い田から捨てられていく。ねんど質の土地は、畑への転用は容易ではなく、いまも昔も畑作は平均6畝ほどだ。

自分のなかの二封にいた
ている意味があるっていうんで
しょうか。都市に出ていったつ
ていいわけです。だけど、ここ
で自分のつくったものが、ここ
の魅力として消費されていくの
は、ここに自分がいることの意
味（二封）

そんな感性を次の世代の私たちは育てることが必要なんですね。現実問題としては『労働力』も必要なのでしょうかけれど、この地では、かねてから和紙づくりは農家の冬の副業であった。

最近、町は農家に多品種少量生産で野菜づくりを奨励し、地元老人ホームやじょんのび村、学校での消費に取り組んでいる。「農家はここに生まれ、ここが好きなんです。自分たちの米や野菜が地元で消費されることは、誇りになり、生き甲斐になる。ここに仕事があることに喜びがあるんです。」

また、地域づくりのリーダー的
的存在である、和紙工房の小林
康生さんは、

年目を迎える、24人の会員が、年に4～5回集まって、農業經營について発表し、互いに検討し合っている。中村さんはいう。

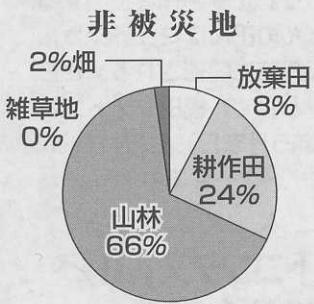
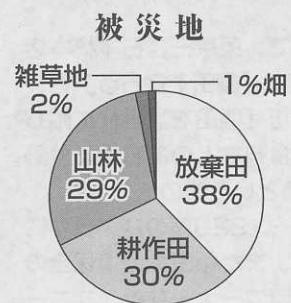
「中山間地は、これから米だけではやつていけないでしょう。だから互いに農業をしてここでやつていくために、何がいいか、どんな方法がいいか情報交換することが大切なんですよ。」

農法発祥の地である。その発祥者、中村藤栄さんは、中山間地ならではの農業を模索し、ゼンマイ栽培に成功した。

味つけを強めてくれるんです」農林課の中村圭希さんは「ここに生きる意味」そんな言葉をくり返した。

また、地域づくりのリーダー的存在である、和紙工房の小林康生さんは、
「棚田を生かしていくには、儲かる儲からないという発想じゃなくて、気持ちや想いが必要です。70近い人たちが、農業をしていくのでなく、百姓をしているんです。そろばんで考えて米を育てたりしない。想いで米を育てる。それが百姓です。
そんな感性を次の世代の私たちも育てることが必要なんですね。現実問題としては『労働力』も必要なのでしょうか？」
この地では、かねてから和紙すきは農家の冬の副業であつた。

調査地点斜面上部の植生



被災地
8月末、地滑り学会で「放棄田と地すべりとの関連調査」の報告がなされた。これは、新潟県農地建設課が調査委託し、新潟県東頸城郡内の地すべり防止区域を対象に平成8年度、9年度にかけて調査・解析を行つたものである。

調査対象は、東頸城農地事務所管内の構造改善局指定の地すべり防止区域88地区内のうち、昭和50年以降（詳細が明らかなるものは昭和30年）に地すべり災害が発生した区域。これらの地域をアンケート及び航空写真で判断し、山林、耕作田、

8月末、地滑り学会で「放棄田と地すべりとの関連調査」の報告がなされた。これは、新潟県農地建設課が調査委託し、新潟県東頸城郡内の地すべり防止区域を対象に平成8年度、9年度にかけて調査・解析を行つたものである。

また、「地すべりの被災率」は、斜面上部及び地すべり頭部の植生の組み合わせで被災率を出しているが、両方とも放棄田の場合は、11・48%ともっとも高く、斜面上部に山林・地すべり頭部に耕作田の組み合わせがもっとも低い0・66%と出た。この数値は調査全体から算出されたものでないため、厳密ではないが、植生の相違による被災率の傾向がわかる。

耕作放棄された棚田が地すべりの誘発要因に

新潟県の調査から

放棄田、畑、雜草地といった植生分布を比較し、地すべりとの関連を見、統計学手法で解析した。

その結果、まず、被災地と非被災地の植生分布について比べると、放棄田の占める割合は、非被災地37%に対し、被災地は55%と高い。さらに斜面上部のデータでは、非被災地の耕作放棄田の割合が8%であるのに対し、被災地では38%と明らかに高い。（グラフ参照）

また、「地すべりの被災率」は、斜面上部及び地すべり頭部の植生の組み合わせで被災率を出しているが、両方とも放棄田の場合は、11・48%ともっとも高く、斜面上部に山林・地すべり頭部に耕作田の組み合わせがもっとも低い0・66%と出た。この数値は調査全体から算出されたものでないため、厳密ではないが、植生の相違による被災率の傾向がわかる。



Topics

第2回 棚田コンサートを開催

県内6バンドが出演し、棚田の歌を披露

兵庫県加美町

兵庫県加美町企画課 今中 孝介

さらに、放棄田が一要因となつて発生した地すべりの割合は、近年増えており、とくに平成6年の干ばつとその翌年は格別高かつたことが明らかにされた。

（放棄田と地すべりとの関連調査報告書）新潟県農地部農地建設課、平成10年9月、より

「棚田、棚田、棚田を守ろう。ふるさとの水や空気を守ろう」 「棚田の石づみに咲く花は君の想いを終えたオーナー家族らを前に6バンドが出演、棚田など美しいふるさとへの思いをこめたオリジナル曲を熱唱。あいにくの小雨のなかだつたが、大自然のなか収穫を祝うとともにコンサートを通じ交流を深めた。

棚田コンサートは、棚田の保存と農村・都市交流を進める棚田オーナー制度を導入した昨年に続き2回目。今回は、全国でも有数の美しい棚田がある同地区をより多くの人に知つてもらおうと、町、岩座神地区棚田保存会（木原勝実会長）、岩座神棚田の前中一良会長）が、「棚田」の「加美」「水」「空気」を歌詞に盛り込んだオリジナル曲を公募したり。県内から13バンドの応募があり、「花嫁」の作曲者として知られるシンガーソングライターの坂庭省悟さんが事前審査。この日は、地元をはじめ神戸や姫路、西脇市から応募し選ばれたアマチュア6バンドが出演した。各バンドとも棚田や加美町の歌を歌った。また得意な歌を一曲ずつ熱唱、会場を盛り上げた。審査の結果、最優秀曲には地元から出

た。

町では、5年後には毎年の最優秀グループを集めた「棚田コンサート選手権スペシャル」開催や、最優秀曲などを集めたCDの製作を計画している。なお、来年は9月26日に棚田コンサート開催が決定しており、坂庭さんによると審査委員長をお願いしている。全国で棚田コンサートを開催しているのは加美町と奈良県のみで、オリジナル曲を公募しているのはわが町だけと聞く。これからも毎年続けていき、加美町からの棚田発信事業としていきたい。



「きみは棚田を見たか! — 棚田パノラマ体験展」

サポーター
募集!

協力内容として、展示会場でお客様の案内・整理ができる。雑誌ミニコミ等で記事にできる。1口1万円の協賛金が出せる。お客様を説く。ポスターがはれる。そのほか具体的なアイデアがあるなど、さまざまな協力サポートを求めてます!

お申し込み、お問い合わせは、ふるさとやらばんへ (TEL042・381・6721 FAX042・383・8614)

1999年7月27日～8月8日

来年7月、全国棚田(千枚田)連絡協議会主催で、東京三越日本橋本店において、「棚田パノラマ体験展」を開催する。ただ「棚田を守ろう」とアピールするイベントではなく、より一步踏み込んだ「棚田を次世代に残していくために」をテーマに、環境・科学・教育・食料などのあらゆる分野から棚田を描き出し、都市の人たちに伝えていくというものです。

具体的には、棚田の写真&アートパネルコーナー、220度のパノラマによる棚田の再現コーナーをはじめ、教育コーナー、また棚田の環境保全の役割を見る実験工房や棚田米などの販売も行う交流コーナーなど、ユニークな内容がぎっしり。企画制作を担当するふるさとやらばんの田んぼミュージカル公演や棚田学会が同時に開催される。さらに、関連イベントとして、棚田フォトコンテスト(締切99年5月末日)も行われる。ただいま、個人サポーター募集中!

棚田フォトコンテストII 棚田60選を開催

選ばれた60市町村の棚田を通じ、風景、歴史、労働、暮らし、季節など棚田のすべてをテーマに募集。特定の自治体の棚田の作品を重点的に募集するが、60選以外についても優秀な作品に対しては入賞の対象とする。審査委員…田沼武能(日本写真家协会会长)、英伸三(写真家)、朝日新聞社、石塚克彦(ふるさとやらばん演出家)。後援…朝日新聞社、全日本写真連盟。詳しくは…ふるさとやらばんネットワーク

TEL03-5389-9937

INFORMATION

千葉県鴨川で棚田シンポジウム

東京に一番近い棚田(千枚田)～大山千枚田～からのメッセージ

発足して一年、大山千枚田保存会(会員120名)は「鴨川に千枚田有り!」とのアピールと地域興しのきっかけづくりにとの思いで、「棚田シンポジウム」を開催。棚田オーナー制をテーマに、「奈良県明日香村夢耕社」の高内良輔氏の講演をはじめ、また中島峰広教授(早稲田大学)をコーディネーターにしたパネルディスカッション「棚田(千枚田)保全の今後の取り組みと展望」などが行われる。12月5日(土)13時～・問い合わせ…鴨川市農林水産課内「大山保存会」事務局 TEL0470-93-7834迄

13:10～14:10 高内良輔(奈良県明日香村役場あすか夢耕社)
講演「明日の光を探して」～棚田ルネッサンス～

14:20～15:00 〈事例発表〉

・石井里津子(ふるさとやらばん出版・広報部ライター)

「棚田を教育の場にいかすための事例報告」

渡辺隆俊(大山地区部会長)

「大山地区の棚田保全の取り組み」

15:00～16:00 〈パネルディスカッション〉

「棚田(千枚田)保全の今後の取り組みと展望」

～保全・活用の問題点とその解決にむけて～

コーディネーター：中島峰広(早稲田大学教育学部教授)

パネラー：高内良輔(奈良県明日香村あすか夢耕社)／石井里津子(ふるさとやらばん出版・広報部ライター)／高野光世(棚田支援市民ネットワーク事務局長)／本多利夫(鴨川市長)／小原京美(大山千枚田保存会会長)

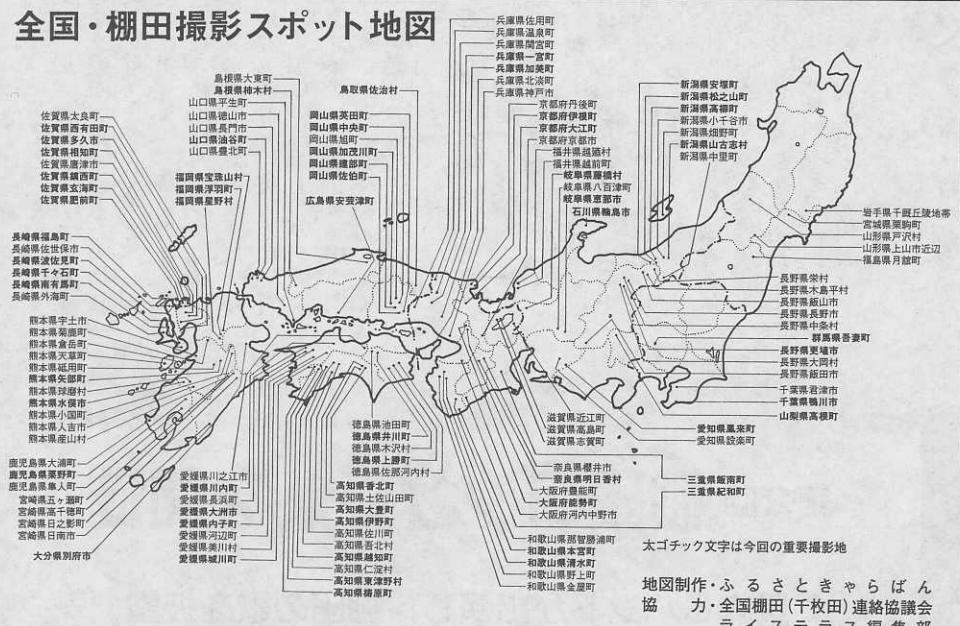
*ふるさとやらばんミュージカル「パパは家族の用心棒」公演

17:00開場 17:30開演 鴨川市文化体育館にて

前売3000円 当日3500円

12月5日(土)
鴨川市民会館

全国・棚田撮影スポット地図



太ゴチック文字は今回の重要撮影地
地図制作・ふるさとやらばん協力・全国棚田(千枚田)連絡協議会ライステラス編集部

新しく会員になったみなさま

正会員<団体>

新潟県(株)新潟ケイペイ
東京都(社)農村環境整備センター

正会員<個人>

新潟県今野富士子
福岡県古賀一成
京都府段野貴子

賛助会員<個人>

東京都新田康二
富山県浅野明宏
新潟県竹内吉一
新潟県石本辰夫
新潟県市嶋彰

会員
募集中

全国棚田(千枚田)連絡協議会

お申し込み・お問い合わせは、協議会事務局
長野県更埴市役所経済部農林課まで

長野県更埴市大字杭瀬下84番地
TEL 026・273・1111 FAX 026・273・1004

編集後記

みなさんの地域では、棚田を保全・活用するため、どのような試みをしていますか? どんなアイデアをお持ちですか? 情報をお寄せ下さい。誌面で紹介したいと思います。さて、私事で恐縮なのですが、先日、棚田の取材先で得意げに作成中の「棚田ワークブック」を地元の方に見せたとき、「知識だよね。想いがない」とアドバイスを一言。ショックでした。農家の人の想いは自分にはわかつていなかつたのかと。出直します。棚田の仕事を通して、私は都市と農村をつなぐ、何らかの役割を担う立場に自分がいるような気がしています。みなさんはどのような役割を感じていらっしゃいますか?

石井里津子